ホスピスの役割解説

外旭川病院　5年ぶりに講座

ホスピスでの緩和ケアに理解を深めてもらおうと、外旭川病院（秋田市）は13日、市民公開講座を中通のにぎわい交流館で開いた。開催は新型コロナウイルス流行前の2019年以来5年ぶり。来場した市民ら約100人は、病院スタッフの解説に熱心に耳を傾けた。

同病院では1998年にホスピスを開設。現在は34床でケアを行っており、がんの終末期の患者が多く利用している。この日は、松尾直樹・ホスピス長が「知っておきたいがんの症状と心のケア」と題して講演。がんでは老衰や臓器不全に比べて急激に体力や体の機能が低下することや、苦痛緩和ケアへの理解が進んでいない現状を説明した。

「ホスピスってどんなところ？」をテーマにした寸劇も披露。医師が入院前に患者の外出や投薬の疑問に答えたり、看護師ががんによる体の痛みに対応したりする様子を再現した。病状が悪化して「情けない」とこぼす患者の話を聞く場面では、ホスピスについて「体と心のケアが役割だ」と解説し、家族からの相談にも丁寧に応じているとした。

講座では、散歩への付き添いや囲碁・マージャンの相手をボランティアが担っていることにも触れた。コロナ禍前は約140人が在籍したが、現在は70人ほどに減少しているといい、来場者にも参加を呼びかけた。

病院では養成講座を実施している。問い合わせは同病院☎018・868・5511

（三浦正基）

病院のスタッフによる寸劇でホスピスについて理解を深めた市民公開講座

2024年（令和6年）4月19日（金）付　秋田魁新報